

総合 計画 体系	政策名	Ⅱ 環境に配慮した安全・快適な生活環境づくり 《定住環境》	施策主管課	建設事業課
			施策統括課長	藤原 重信
	施策名	7 道路網の整備	関係課	業務管理課,都市建築課,事業管理課

1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)		対象指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
	市内を安全で迅速に移動できるようにする。 ②意図(どのような状態にするのか)	A) 道路利用者 B,C) 生活道路(市道・一般県道)	A	道路利用者数(一般県道)	台/日	実績見込	30,504	30,233	31,548	32,609	
実績				30,200	30,100	30,000	30,000				
B			市道・一般県道の路線数	路線	実績見込	2,276・17	2,250・17	2,280・18	2,275・18		
			実績	2,285・18	2,290・18	2,295・18	2,300・18				
C			市道・一般県道の延長	km	実績見込	1,154・131	1,155・131	1,155・130	1,151・132		
			実績	1,156・131	1,157・131	1,158・131	1,159・131				
成果指標			単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
A		市道改良率(1車線改良を含む)	実績	%	実績	55.5	55.7	55.8	56.1		
			目標		目標	56.0	56.2	56.4	56.5		
		B	県道改良率(1車線改良を含む)	%	実績	56.6	57.7	58.8	60.1		
			目標		目標	57.0	57.2	57.3	57.5		
C		1)生活道路が安全で便利な道路だと感じている市民の割合 2)危ない場所があると感じている市民の割合	実績	%	実績	58.9・74.1	57.1・70.4	55.7・70.8	56.9・72.5		
	目標			目標	59.3・73.7	59.5・73.5	59.7・73.3	60.0・73.0			
D	市道の歩道整備率	実績	%	実績	3.6	3.7	3.8	4.0			
		目標		目標	3.7	3.8	3.9	4.0			
成果指標設定の考え方(成果指標設定の理由)		A,B)市道、県道改良が進めば、安全で迅速な移動が可能だと考えた。C-1,2)安全で便利な生活道路かどうかは、道路利用者がどのように感じているかも判断材料になると考えた。D)歩行者も生活道路利用者であり、歩行者にとっても安全で利便性が高いことが必要であるため、歩道があるかどうかを成果指標とした。									
成果指標の測定企画(実績値の把握方法)		A,B)建設部で把握、鳥根県「道路等の現況調査」 C-1,2)市民アンケート調査により把握「あなたは日頃利用している生活道路が安全で便利な道路だと感じていますか?」「あなたが日常的に利用している生活道路で危ない場所があると感じますか?」 D)鳥根県「道路等の現況調査」市道路台帳(道路現況調査)歩道等設置道路延長/道路実延長									
目標設定とその根拠(基本計画策定時)		A)成行値は、現在十分な予算確保ができず、大きな増加は望めない。目標値は、予算確保に努め、計画的に地域バランスを考慮して市道改良を進めることで、H26年にH20年から1ポイント向上することとする。B)成行値は、県においてもA)と同様に予算確保が難しい状況である。目標値は、県に対して引き続き地元と一体となり、強く要望していくことで、今後の向上を図る。C-1)道路改良率が向上することで、安全性・利便性は向上すると考える。よって、成行値及び目標値は、H21年実績を基に道路改良率に比例した数値とする。C-2)C-1)とは逆に、改良率が向上することに合わせ、危ない場所は減少していくと考える。D)市道については、基本的に道路改良に併せて歩道を整備しているため、C)と同様の考え方で設定する。									

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① 生活道路の新設・整備	生活道路	新設・改良する。	県道整備率 市道整備率	%	実績	56.6 55.5	57.7 55.7	58.8 55.8	60.1 56.1		
② 道路の補修・維持管理	生活道路	適正に維持管理する。	生活道路が安全で便利な道路だと感じている市民の割合・危ない場所があると感じている市民の割合	%	実績	58.9・74.1	57.1・70.4	55.7・70.8	56.9・72.5		
③ 道路情報提供の充実	道路利用者	市内の道路情報を得てもらう。	サイン計画に基づく実施数	個所	実績			サイン計画策定後(H25年度以降実施)			
④					実績						
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	住民(事業所、地域、団体)の役割	行政(市、県、国)の役割
①	<ul style="list-style-type: none"> ●整備事業が円滑に進捗するよう、地元の事業推進体制(用地・補償の調整など)を整え、協力します。 ●生活道路の維持管理について、道路愛護活動への参加に努めるなど、地域でできることは地域で主体的に行う。 ●異常箇所を発見した場合は、道路管理者に通報する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●整備計画を策定し、計画的な道路整備に努め、住民説明会などを通じて住民理解を得ながら事業を実施する。 ●舗装・側溝修繕、除草・樹木伐採、除雪など、適切な道路維持に努める。
②	A) 施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して)	B) この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
③	○県を挙げての入込客増加対策や、高速道路の開通等により県道・市道等の更なる利用者数の増加が想定される。	○道路改良に関する陳情・要望が多数ある。(行止まり道路の解消、視距の確保、道路拡幅など) ○道路維持・修繕に関する要望等が多数ある。(舗装・側溝修繕、除草・樹木伐採、除雪など)

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)	背景・要因
<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	○H24年4月現在の一般県道改良率は、雲南市60.1%に対し、松江市71.1%、出雲市73.1%、安来市61.9%、大田市49.8%、浜田市54.6%、江津市44.8%、益田市54.6%で、8市の中では比較的高い。 ○市道改良率は、雲南市56.1%で、8市の中では2番目に高い。2車線改良率は、雲南市13.2%で8市の中では3番目に高い。

平成25年度施策マネジメントシート2(平成24年度実績の評価)

《7 道路網の整備》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	背景・要因 ○市道整備は、合併時からの継続路線の整備がほぼ完了したことにより、道路環境が向上している。 ○一般県道は、要望活動を積極的に行った結果、改良率が向上した。 ○生活道路が安全で便利な道路だと感じている市民の割合、及び危ない場所があると感じている市民の割合は、H21年度から多少の増減はあるがほぼ横ばいで推移している。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○一般県道は、要望活動を積極的に行った結果、改良率が向上し、目標値を上回った。 ○市道は、計画どおりに整備し、ほぼ目標値どおりであった。 ○生活道路が安全で便利な道路だと感じている市民の割合は目標に達しておらず、引き続き道路整備に努めていく必要がある。
基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① 生活道路の新設・整備	・市道改良事業は、合併時からの継続路線が概ね完了した。 ・H25年度以降の計画的な市道改良のため、雲南市道路整備計画を策定した。
② 道路の補修・維持管理	・公共施設リフレッシュ事業は、道路の除草や側溝管理など、生活道路の維持管理に貢献した。 ・H24年度は降雪量が少なく、稼働日数も少なかったが、今後も除雪機械の更新やオペレーターの確保を図りたい。 ・H24年度に市道の維持管理計画を策定した。 ・橋梁長寿命化修繕計画をH25年度までに策定が完了するよう、橋梁点検等を実施した。
③ 道路情報提供の充実	・交通規制情報は、CATVを活用した情報発信などにより、適切に情報提供を行った。 ・サイン計画を策定するための現況調査を行った。
④	
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)	
施策	○優先度や地域バランスを考慮し、計画的に道路網を整備していく必要がある。 ○生活道路を適正に維持管理していく必要がある。	○雲南市道路整備計画に基づき市道を整備していく。 ○道路維持管理計画に基づき生活道路の計画的な維持管理を図っていく。	
基本事業	① 生活道路の新設・整備	○新規路線の整備要望が多く、計画的に実施していく必要がある。 ○交通安全・局部改良等の要望が多く、対応策が必要である。	○雲南市道路整備計画に基づき市道を整備していく。 ○市道の交通安全対策・局部改良等を進めていく。
	② 道路の補修・維持管理	○高度経済成長期に建設された多くの構造物は、更新時期にあり、その対策を計画的に行っていく必要がある。 ○橋梁長寿命化修繕計画や道路維持管理計画に基づく事業実施においては、大規模な事業費を伴うことが課題である。	○市道の維持管理計画に基づき、計画的に維持・修繕していく。 ○橋梁長寿命化修繕計画に基づき事業を進めていく。国に対し財源措置の要望を行っていく。 ○県と連携し、万全な除雪体制を目指す。
	③ 道路情報提供の充実	○きめ細やかな案内標識を設置すること。	○道路サイン計画に基づき、国・県との調整を図りつつ、効果的な道路サインを設置していく。
	④		
	⑤		